

りんごの牛肉巻きトマトソース煮

材料(4人前)

- 牛薄切り肉・4枚 100g
- りんご 1/2個
- サラダ油 大さじ1/2
- ケチャップ 大さじ3
- 水 1/4カップ
- A 玉ねぎ・すりおろし 大さじ1
- みりん 大さじ1
- しょうゆ 大さじ1/2
- パセリ・みじん切り 少々

作り方

- ①りんごは皮をむき6等分にし、牛肉を広げて小麦粉をふり、りんごをきっちり巻く。
- ②フライパンに油を熱し、①のまわりに焦げ目をつけるように焼く。
- ③②にAを入れ、約10分煮込む。
- ④半分に切った③を盛りつけ、ソースをかける。

調理時間 約20分

**冬休み
りんご料理
チャレンジ**

※学校給食ごはん発行事務局考案レシピより

むずかしい言葉は、おうちの人と聞きながらつくってみよう!

焼りんごミルクプリン

材料(2人前)

- りんご 1/2個
- 牛乳 75cc
- はちみつ 大さじ1
- 小麦粉 小さじ1
- 砂糖 小さじ1
- バニラエッセンス 1~2滴
- 粉砂糖 適量
- バター 適量
- ミントの葉 適量

作り方

- ①ボールにAを入れて、よく混ぜ合わせる。
- ②りんごは皮をむかずに、厚さ1cm以下にスライスして、フライパンにバターを入れさっと焦げ目がつくように両面を焼く。
- ③耐熱皿に①の半量を入れ、りんごを並べたら残りの①をまわりに漬し入れ、180℃に熱したオーブンで15分ぐらい焼く。
- ④焼き上がったりんごの上に、粉砂糖をふりかけてミントの葉をのせる。

調理時間 約30分

**照り焼きチキンの
りんごソース和え**

材料(4人前)

- 鶏むね肉 200g
- 塩 小さじ1/2
- こしょう 適量
- 小麦粉 大さじ1
- サラダ油 大さじ1
- りんご 1/2個
- A 酢 小さじ1
- しょうゆ 小さじ1
- B みりん 小さじ1
- しょうゆ 小さじ1

作り方

- ①鶏むね肉をひと口大に切り、塩、こしょうを振って小麦粉をまぶす。
- ②りんごは皮付きのまますりおろしてポウルに汁ごと入れ、Aの調味料を加えて混ぜる。
- ③フライパンにサラダ油をひき、鶏むね肉を並べて、中火で両面を焼く。焦げ目がついたらAのソースの水分を小さじ1とBを加えて炒め煮にする。
- ④③の鶏肉に②のりんごソースを加えて和える。

調理時間 約20分

ご協賛をいただいた企業・団体

北海道クリーン農業推進協議会

ご協力いただき、誠にありがとうございます。

□発行・編集 株式会社フラクトル内 学校給食ごはん発行事務局 TEL 011-231-6234 □印刷:株式会社源田製版 □デザイン:GRAPHIC DROP □インタビュー・文:長谷川圭介 □写真撮影:moro

おいしい給食おうちで楽しんで

学校給食ごはん2023
冬
特集号

01

後援/北海道中学校長会、北海道小学校長会、札幌市小学校長会、公益財団法人 北海道学校給食会、北海道学校給食研究協議会

**YES! cleanで
栽培されたハックナイン、
みんな食べてね~**

ほくほくポテトグラタン

材料(4人前)

- 薄切りベーコン 2枚
- 玉ねぎ 中2個
- じゃがいも 中3個
- にんじん 1/4本
- 冷凍またはホールコーン 100g
- サラダ油 大さじ1
- A 小麦粉 大さじ2
- バター 20g
- 牛乳 180cc

作り方

- ①厚手の鍋にAのバターを入れ、弱火で溶かし、小麦粉を振り入れ、トロッとするまで炒めます。火を止めて、牛乳80ccを少しづつ入れてよく混ぜ合わせます。
- ②ベーコンは1cm幅に切り、玉ねぎは長さ1/2のくし切りにします。じゃがいもは厚さ1cmのいちょう切り、にんじんは厚さ5mmのくし切りにします。
- ③鍋にサラダ油を熱し、ベーコンと玉ねぎを入れ、よく炒めます。じゃがいもとにんじんを入れて炒め、スープ100ccを入れて煮ます。
- ④じゃがいもが煮えたら牛乳を100cc入れ、塩こしょうを加えてあたためます。
- ⑤火を止めて②のホワイトソースを入れて混ぜ合わせ、火をつけてひと煮立ちしたら火を止めます。
- ⑥器に⑤を入れ、溶けるチーズとパン粉をのせて180℃のオーブンで10分程焼く。
- ⑦パセリのみじん切りをかけて出来上がり。

調理時間 約40分

※給食レシピは許可をえてアレンジして掲載しています

むずかしい言葉は、おうちの人と聞きながらつくってみよう!

無料で配られたYES! cleanで栽培されたりんご(ハックナイン)、
じゃがいも(大正メークイン)はおいしい給食に使われます

ハックナインがデザートで使用されます

- 札幌北小学校 12/4
- 中高小学校 12/4
- 北高台小学校 12/6
- 平岸高台小学校 12/8
- 西陽北小学校 12/6
- 新琴似小学校 12/7
- 東陽中学校 12/6
- 新琴似中学校 12/7
- 藻岩西中学校 12/5
- 新琴似西小学校 12/7
- あやめ野中学校 12/6
- 南の沢小学校 12/5
- 藻岩北小学校 12/5
- 三崎山小学校 12/5
- 厚別西小学校 12/7
- 潤井川小学校 12/6
- 厚別北小学校 12/5
- 大倉山小学校 12/5
- 厚別西小学校 12/7
- 潤井川小学校 12/8
- 芦戸小学校 12/11

大正メークインがポテトグラタンに使われます

- 北高台小学校 12/11
- 平岸小学校 12/11
- 西陽小学校 12/12
- 新琴似小学校 12/13
- 藻岩北小学校 12/14
- 藻岩南小学校 12/15
- 藻岩中央小学校 12/14
- 西陽中央小学校 12/12
- 新琴似中央小学校 12/13
- 藻岩中央小学校 12/15
- あやめ野小学校 12/11
- 西陽の沢小学校 12/12
- 東陽小学校 12/13
- 中高小学校 12/15
- 二十四新小学校 12/11
- 三角山小学校 12/13
- 南の沢小学校 12/14
- 厚別東小学校 12/15
- 夢丘小学校 12/11
- 大倉山小学校 12/13
- 藻岩北小学校 12/14
- 厚別北小学校 12/15
- 三崎山小学校 12/5
- 厚別西小学校 12/7
- 潤井川小学校 12/6
- 厚別北小学校 12/14
- 中高月季中学校 12/15
- 芦戸小学校 12/11
- 厚岸小学校 12/12
- 厚岸南小学校 12/13
- 西陽北小学校 12/14
- あやめ野中学校 12/15



北海道安心ラベル

北海道クリーン農業推進協議会
イエスクリーン 検索



インタビュー・文/長谷川圭介 写真撮影/moro

ハックナイン



東谷 隆悦さん

余市町りんご生産出荷組合クリーン研究班

おいしいけれども農家泣かせの品種

北海道の西部、積丹半島の付け根に位置する余市町は、北海道の中でも比較的温暖で、昔からりんごをはじめとする果物の栽培が盛んに行われてきました。

今回お話を聞いたのは、余市町の梅川という地区でりんごを生産する東谷隆悦さん（71歳）。お父さんの下で18歳から農業の仕事を始め、50年以上がたちます。現在はさくらんぼや梨も生産していますが、最も多く育てているのが

はりんごです。有名な「ふじ」のほか、「つがる」「王林」「ひめかみ」「レッドゴーランド」「あかね」など、全部で18品種も栽培しています。「ハックナイン」もその一つ。1986年に北海道で初めて品種登録された「ハックナイン」は、実が大きく、果汁たっぷりで、ジュースの原料にぴったりな品種です。ところが、現在は「ふじ」などにおされ、生産する農家も少なくなっています。

「うちも昔はかなり育てたよ。北海道で初めて生まれた品種だし、豊産性^{※1}といって、すごく実がなりやすいから、周りもみんな育てたね。ただ、たくさん取

※1 豊産性／果実などの作物がたくさん実り、収穫量が多いこと。

※2 有機質肥料／油かすや米ぬか、糞尿のふんなど、植物や動物由来のものを原料にした肥料のこと。これに対して鉱石や空気中の二酸化炭素などを原料に化学合成して作る肥料を化学肥料といいます。どちらも土に埋め込むことで作物の育ちが良くなります。有機質肥料の方が種子から収穫が表れ、土に溶けての良い影響があるなどあります。

※3 CO₂/二酸化炭素のこと。二酸化炭素は、ものが燃えたり、動物植物が呼吸したときに発生します。空気中の二酸化炭素の割合が増えることで、地球の温室効果を高め、地球温暖化を引き起こす原因となります。

※4 採花／生育の良い花を残して残りの花を摘み取っていく作業のこと。

春から収穫までの農作業



5月／マメコバチは花粉を花から花へと運ぶ受粉してくれます

6月～7月／大きくておいしいりんごにするための摘花(できか)^{※4}作業

6月～7月／受粉がうまく行われて、実が少しふっくらしてきたりんご

8～10月／反射シート巻き地面に巻いてりんごの下面にも光を当て、りんご全体に色をまらなくつけるようにする作業です。

りんごが大きくなり枝が重くなりすぎて折れてしまわないよう、支柱で枝を支えます。

東谷さんが生産している



続けられたのよ
仲間がいたからかな



果樹栽培でJAよいちが初めてYES! cleanに登録

東谷さんは「ハックナイン」などすべてのりんごを YES! clean (イエスクリーン) の栽培基準を守って生産しています。YES! clean とは、簡単にいうと、化学肥料や化学合成農薬の使用をできるだけ減らした農業のこと。りんごは害虫や病気の被害を受けやすい作物ですが、東谷さんは1995年頃から梅川地区の仲間と一緒に、減農薬を取り組んできました。1999年には東谷さんたちのグループ「青梅会」が果樹栽培としては北海道で初めて YES! clean に登録されました。取り組みはさらに広がり、2004年には余市町全体でクリーン農業の研究班が立ち上がりて YES! clean に登録。現在は町内20戸の生産者が、農薬の使用量を抑え、化学肥料を使わず、たい肥などの有機質肥料^{※2}でりんごを栽培しています。

育てる面でも、目持ちの面でも扱いが難しい「ハックナイン」ですが、それでも栽培を続ける理由を東谷さんは次のように話してくれました。『甘くてほどよく酸味があってね。ジュースにしたら最高でしょ。ハックナインじゃなきゃダメっていう熱烈なファンがいるんだよね。それにやっぱり北海道で初めて生まれた品種だからさ。なくしたくなっている気持ちがある。一度途絶えてしまったら、復活させるのは本当に難しいことだから』

最初は周りからも減農薬でりんごを育てるのは難しいといわれました。続けられたのは仲間がいたからかな。みんなで勉強して、試して、教え合って、より良いやり方を見つけていきました。最近は地球温暖化の影響で害虫や病気も変化してますます難しくはなっているけれど、できる限り減農薬を続けたいと思う。ただ誤解してほしくないのは、今、日本で認められている農薬は、定められた使用法を守れば、使用された作物は決して人体に影響のないものだということ。農薬=悪ではないんです。農薬を減らす利点はコスト(生産にかかる費用)を抑えて、食べる人が手に取りやすい価格で提供できることだと思います。また、散布回数が減ることにより使用燃料が減り、CO₂^{※3}をはじめとした温室効果ガスの低減にもつながります。りんごに限らず果物は体に良いので、どんな果物でもいいから毎日食べてもらいたいというのが心からの願いです。